

食の安全と品質保証のための

2009 Vol.15

月刊 HACCP 4

HAZARD ANALYSIS AND CRITICAL CONTROL POINT

特集

グローバル化進む
アジアの食品安全管理

効果的なアレルギー・コントロール
の考え方

新時代に挑む
企業戦略

オール電化厨房でHACCP運用、安全・安心の食事を提供
(株)新緑・デリキッチンにしわき

目的意識を持った衛生活動の見直し

第三者審査登録機関 エコアオーデット(株)

代表/CEO 宮澤公栄

最近では消費者からの食品安全への注目度も高まり、衛生活動に力を入れている食品工場も多いようです。衛生活動に力を入れること自体は大変良いことですが、残念なことに「なぜ、その活動をしているのか？」を理解せずに導入している食品工場も目に付きます。

今回は、衛生活動の目的を理解できていないことによって「同じ活動をしているのに成果が出ない現象」の謎を解きたいと思います。

衛生活動の効果とは何か考えてみると、「きれいになっている」ことではなく、「微生物の制御」や「異物混入要因の除去」であることは理解されているはずですが、しかし、現場では、目的意識ではなく、業務指示として活動を行っていることが多いのです。事例をいくつか挙げて考えてみましょう。

①手洗いの目的意識

工場のパートさんなどに「なぜ手洗いをしているのですか？」と質問すると、「ルールだから」「手が汚れているから」などの回答が返ってきます。

手洗いは、汚れを落としたいだけでなく、微生物に対する洗浄と殺菌が含まれています。しかし、そのポイントにまでは意識が届いていないことが多いようです。意識が届かないと、手洗いによって爪の先や親指、手首などの微生物が除去できず、工場内に菌を持ち込んでしまいます。手を洗うことが目的ではなく、汚染源が除去されていることが目的であることが、入場者全員に理解され、徹底されなくてははいけません。

②飛翔性昆虫捕獲器の目的意識

食品工場では、飛翔性昆虫（ハエなど）の対策を行うことが一般的ですが、意外と正しい飛翔性昆虫捕獲器の利用ができていません。光学誘引式捕虫器（以下「ライトトラップ」）の設置はされていますが、ほぼ外に近いところで捕獲された匹数をカウントして、その結果が「1000匹」とか「2000匹」とかになっているにも関わらず、全種・全数の虫の種類まで同定していることがあります。

しかし、このことはマネジメント要素で考えると、はっきりいって「無駄」な労力であり、1000匹が1500匹だろうと、あまり今後の活動には関係ありません。それよりも対象のライトトラップが「捕獲用」なのか「モニタリング用」なのかを理解しているか否かが重要です。

外に近い状態の場所が施設内にある場合は、衛生エリアに虫が侵入しないように、捕獲が必要なことがあります。その場合は1000匹、2000匹といった数の虫が捕まっていると、粘着面が埋まってしまい捕獲しきれなくなり、本来の「侵入させない」という目的を達成できないことになります。粘着面が週間ごとに自動交換される機器などを利用すると、常に捕獲も可能であり、虫の種別検査も容易になります。

また「衛生エリアだからライトトラップを設置しない」という工場もあります。しかし、これは「準衛生エリアで虫が0（ゼロ）だと証明でき、かつ目視や歩行性昆虫用の粘着トラップなどで衛生エリア内にも虫がいない状態」の時にだけ成立する理論なので、注意が必要です。虫の生息が0であるというなら、0であることを証明するためにも、衛生エリアにライトトラップを設置することは有効な手段といえます。

③粘着ローラー

皆さんの施設では、粘着ローラーに毛髪が付いているほうが良いことですか？ それともローラーに付くことは悪いこととしていますか？ まさか、理解もせずに粘着ローラーに付いた毛髪の本数を数えていることはありませんか？

不思議なことですが、しっかりと理論立てて実施している工場は少ない割に、どの工場でも入室時にローラーを行っています。場合によっては、定期的に粘着ローラーを持ったスタッフが工場内を巡回する仕組みを持っています。しかし、この粘着ローラーも、目的意識がわからずに実施をしているのであれば、得られる記録は事実だけであり、今後の改善に活かすことができません。

粘着ローラーの目的を考えてみましょう。工場製造区画に入る時は、当然ローラーによって毛髪や埃を除去したいので、粘着された方が良いことになります。ただし、あまりにもたくさん取れる場合は、更衣方法や更衣室に問題がある可能性があるため、追跡調査をしなければなりません。製造中に粘着ローラーをかける場合は、「毛髪がないことを確認したい」わけですから、ローラーに毛髪が付いていたら、通常のサンニテーションに問題があると考えられるので、是正が必要となります。

いくつかの事例で目的が不明確になりやすいポイントを解説しましたが、目的を理解せずに、現場ルールとして行っているだけでは成果につながらないこともあるので、再度確認をしましょう。



自動捕虫紙交換型ライトトラップを利用することで、大量に虫を捕獲する場所や週間ごとのモニタリングが必要な箇所を管理

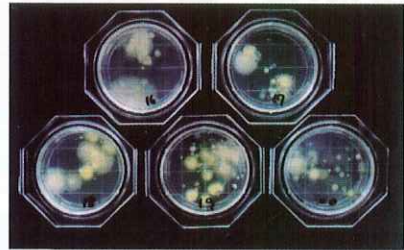


ライトトラップは、「モニタリング用途」か「捕獲用途」かを明確に識別しておく必要があります



粘着ローラーを使用する場合は、毛髪をカウントするだけでなく、付着に対する理論を決めなければ成果につながりません

包装従事者の親指



手洗いの目的意識が低い工場従事者の親指の細菌検査結果



エアシャワーを通った後に殺菌装置があると、手指の衛生が確保できます